

～非常通報装置編～

# 長年の実績と確かな技術で 安心・安全な「明日」を咲かせる

今回のパートナー企業 **サクサ株式会社様**



テルウェル東日本が運営する「ほごころ保育園」にも非常通報装置が設置されている

テルウェル東日本が手がける事業の中には、さまざまなパートナー企業とのアライアンスのもとお客様に提供しているものがあります。「BUSINESS NOW」のコーナーでは、そんなパートナー企業に取材して、事業をめぐる動向やビジネスのヒントを伺います。今回は、金融機関などの防犯に重要な役割を果たす非常通報装置の販売事業でテルウェル東日本とアライアンスを組む、サクサ株式会社（以下、サクサ）様にお話を伺いました。

## 防犯対策上きわめて有効な 110番直結の非常通報装置

強盗発生などの緊急時に備えて金融機関などに設置される110番直結の非常通報装置。ボタンひとつで警察本部の110番指令室につながり、あらかじめ録音した音声メッセージ（名称・住所など）を自動で通報するシステムです。通報を受けた警察は、周辺の警察官を直ちに現場へ急行させるとともに、緊急配備などによって犯人の早期検挙と被害の拡大防止を図ります。

このように防犯対策上きわめて有効なシステムですが、110番直結だけに運用には慎重を期する必要があります。そのため、設置できるのは金融機関のほか小中学校や保育園、JRの駅といった公共施設などに限定されており、事前に警察本部の承認を得なければならぬのが特徴です。

また、消防法で定められたホテルや病院、老人ホームなどの施設に設置する119番直結の火災通報装置もあります。

テルウェル東日本・西日本（以下、テルウェル）は、全国でこのような通報装置約5万

■非常通報装置設置台数  
(テルウェル東日本エリア)

業態	設置台数
金融機関	13,870
学校	5,187
JR/高速	1,286
福祉施設	463
官公庁	305
その他	937
合計	22,048

2014年4月1日現在



サクサ株式会社  
ソリューション営業本部 第一営業部 営業担当部長  
及川 賢様

「失報」ともに防がなければならぬのが「誤報」です。これは、足元の通報ボタンを間違えて蹴ってしまうなど、人為的な原因がほとんどを占めます。

「ボタンは非常通報装置と人とのインターフェイスに当たるもので、押しにくくても軟らかすぎてもいけません。このメカニカルな部分に関するノウハウが、非常通報装置の信頼性を大きく左右するのです」と、同社ソリューション営業本部第一営業部部長の及川賢様は語ります。

実際、1年ほど前に発売された最新機種「PFE-800」の開発に際しては、誤報を最大限まで防ぐため、通報ボタンの作り込みに3年間をかけた。バネを何種類も用意し、テルウェル担当者とともに最適な硬さを入念に検討。また、ボタンのカバーは、従来のように「押して壊す」のではなく、繰り返し使用できる仕組みを開発しました。この新しい通報ボタンが「特許出願中」であることは、サクサ様とテルウェルが「ボタンひとつ」にも

「モノ売り」だけでなく「コト売り」へも注力

テルウェルの非常通報装置は、「ひかり電話」対応など新技術にも追随しながら、常に着実な進化を続けています。

「ネットワークの光化・大容量化が進む中、サクサでは数年前に、ネットワークカメラシステムに強い会社をグループ会社として迎え、映像システムを取扱商品のラインアップに加えました。そうした新しいノウハウも、今後の非常通報装置開発の際に生かしていきたいですね」（及川様）



サクサ株式会社  
ソリューション営業本部 第一営業部 部長  
山口 剛弘様

「遠隔監視と定期保守点検でいざという時の「失報」を防ぐ」

サクサ様とテルウェルの関係は1953年に始まります。サクサ様の前身である大興電機製作所（囲み記事参照）が電話関係で培った音声技術を応用して「盗難火災非常通報機」を開発し、テルウェルの前身である電気通信共済会が販売活動を実施。その後、1970年には現在の非常通報装置につながる機種が販売開始されました。

「当時から40年以上、大きな問題もなく設置・運用されてきたという実績が、テルウェルブランドの非常通報装置の品質を何よりも物語っていると自負しています」と話すのは、同社ソリューション営業本部第一営業部部長の山口剛弘様です。

「遠隔監視と定期保守点検でいざという時の「失報」を防ぐ」

サクサ様の前身は、1938年設立の大興電機製作所と、1946年設立の田村電機製作所です。2社はどちらも、電機公社時代から電話機等の製造を手がけていました。その後も、時代の変化と技術の進歩に応じて、さまざまな通信機器や、磁気カード・ICカードなどの関連分野で事業を拡大。そして2004年4月に経営統合し、サクサ株式会社となりました。

サクサ様では現在も、NTT東日本・西日本をはじめとするNTTグループ各社を主要取引先にしており、同時に、長年にわたる通信機器等の製造で育んだ高度な技術に基づき、安心・安全かつ快適・便利なソリューションを、幅広い事業領域で展開。セキュリティ分野においても、従来の非常通報装置に代表される「アクティブセキュリティ（物理セキュリティ）」にとどまらず、最近急速に成長している「フェイス向けの「ネットワークセキュリティ」分野にも進出するなど、新たな市場の開拓に注力しています。

「一方、お客様施設への設置やその後の保守などはテルウェルが実施。保守センターからの24時間365日の遠隔監視と定期的な巡回保守点検により、いざという時に通報できない「失報」を防いでいます。」

そうした実績や体制がお客様の強い信頼を得て、テルウェルの非常通報装置は高い

## 60年以上にわたる長く深い NTTグループとの関係

サクサ様の前身は、1938年設立の大興電機製作所と、1946年設立の田村電機製作所です。2社はどちらも、電機公社時代から電話機等の製造を手がけていました。その後も、時代の変化と技術の進歩に応じて、さまざまな通信機器や、磁気カード・ICカードなどの関連分野で事業を拡大。そして2004年4月に経営統合し、サクサ株式会社となりました。

サクサ様では現在も、NTT東日本・西日本をはじめとするNTTグループ各社を主要取引先にしており、同時に、長年にわたる通信機器等の製造で育んだ高度な技術に基づき、安心・安全かつ快適・便利なソリューションを、幅広い事業領域で展開。セキュリティ分野においても、従来の非常通報装置に代表される「アクティブセキュリティ（物理セキュリティ）」にとどまらず、最近急速に成長している「フェイス向けの「ネットワークセキュリティ」分野にも進出するなど、新たな市場の開拓に注力しています。

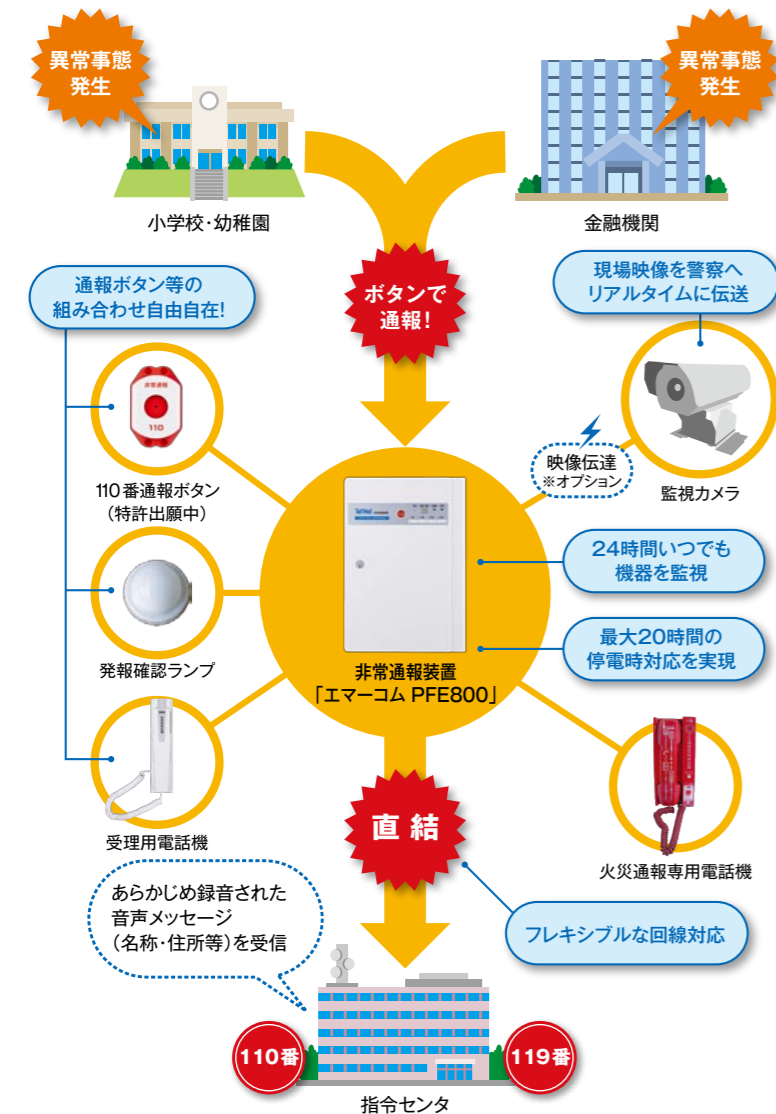
「当社は通信機器主体のメーカーですが、これからは、モノ売りだけでなく、ソリューションなどの「コト売り」にも注力したい。そうした面で、非常通報装置のお客様に当社が強みを持つ別のソリューションをご提案するなど、テルウェル様と力を合わせていければと考えています」（山口様）

「サクサ」とは、「明日」という名の花が咲くことを願ってつけられた社名だそうです。より安心・安全で快適・便利な「明日」を目指し、テルウェル東日本は今後もサクサ様とともに色とりどりの花を咲かせていきたいと願っています。

「失報」ともに防がなければならぬのが「誤報」です。これは、足元の通報ボタンを間違えて蹴ってしまうなど、人為的な原因がほとんどを占めます。

「ボタンは非常通報装置と人とのインターフェイスに当たるもので、押しにくくても軟らかすぎてもいけません。このメカニカルな部分に関するノウハウが、非常通報装置の信頼性を大きく左右するのです」と、同社ソリューション営業本部第一営業部部長の及川賢様は語ります。

実際、1年ほど前に発売された最新機種「PFE-800」の開発に際しては、誤報を最大限まで防ぐため、通報ボタンの作り込みに3年間をかけた。バネを何種類も用意し、テルウェル担当者とともに最適な硬さを入念に検討。また、ボタンのカバーは、従来のように「押して壊す」のではなく、繰り返し使用できる仕組みを開発しました。この新しい通報ボタンが「特許出願中」であることは、サクサ様とテルウェルが「ボタンひとつ」にも



システム概要

### サクサ株式会社

情報通信機器メーカーとして「つなげる技術の、その先へ。」をコーポレートメッセージに掲げ、ネットワーク・ビジュアル・セキュア技術を融合させたソリューションを展開。オフィス、アミューズメント、交通、社会インフラなど幅広いマーケットに向け、お客様視点に立ったシステム・機器・サービスを提供することで、活力とゆとりある社会の発展に貢献しています。



- 社名 :サクサ株式会社
- 本社所在地 :東京都港区白金1-17-3
- 資本金 :107億円(2014年3月31日現在)
- 設立年月日 :2004年4月1日
- 従業員数 :528名(2014年3月31日現在)
- 主な事業 :情報通信ネットワーク関連機器、システムの開発および販売
- 公式サイト :http://www.saxa.co.jp/